



今回は院長のあいさつとともに 10 年勤続表彰対象者の所感をお伝えいたします。

院長 石塚 豊

日本人が大切にしている意識の一つとして、「思いやり」があります。他人のために気遣ったり、同情したり、他人を第一に考えて行動することなどです。思いやりがないとは、自分を最優先にして行動し、自分に甘く他人に厳しい。相手の気持ちが想像できない。他人から受けた恩には感謝せず相手にストレスを与える。言う必要がないことでも思ったことをすぐに口に出してしまう、などです。コロナ禍において、顕著に表れたのがこのことだと思います。日頃は何気なく過ごしてきたことが、令和 2 年になって半年以上が過ぎ、あらためて知らされる「思いやり」のこころです。昨年までは、乳児院のホールに外部からの招待者を集めて大々的に行っていた運動会も、今年は部屋ごとの運動会になりました。また、夕涼み会（夏祭り）も部屋ごとで神輿をひいたり、花火も各部屋からガラス越しに見るようになりました。制限がある中で、職員たちの一工夫（「はらぺこあおむし」の玉入れなど）により、子どもたちが、少ない人数でもホールでのびのびと楽しんでいる姿や、褒められて喜ぶ姿を見ていると、本当に和みます。笑顔で、大きな声で喜びを表現して、楽しさが十分に伝わってきます。子どもたちの笑顔に救われることにより、改めて「思いやり」の大切さを感じました。

入職してからの 10 年間を振り返って

主任保育士 時庭 誠貴

今年、10 年表彰をいただきました。入職した頃は緊張と不安の毎日で仕事を覚えることで必死でした。保育士 1 年目の私にとって乳児院での仕事は常に学びと発見が多く、何より赤ちゃんをお風呂に入れたりミルクを飲ませたり、一緒に遊びながら働くことができる最高の「仕事」だと感じていました。時には失敗することもあり、悩むことも多くありましたが同期スタッフとの週 2 回の焼肉へ行くことを楽しみにお互いを励まし合っていたことが懐かしい思い出です。受け持った担当児との乳児院で過ごした時間は私の大切な人生の宝物です。乳児院の子ども達の思いや担当児の良き理解者になり、気持ちに寄り添い心を受け止めていきたいと思えます。新人保育士の私が 10 年間、保育士として頑張ることが出来たのも先輩たちの御指導やアドバイスをさせていただいたお陰です。仕事を通して先輩たちへ感謝を伝えられるように今後も努力していきたいです。10 年前もこれから変わらず「子どもと同じ目線に立って保育を行う」ことを自分自身の目標にし、子ども達 1 人ひとりと共に成長していきたいと思えます。

入職してからの 10 年間を振り返って

主任 小針 達哉

私事になりますが、この度 10 年勤続表彰をいただきました。上長からの激励の言葉に照れくささを感じながらも、先輩方と後輩たちの人数が変わらなくなった現在の立ち位置に、改めて身が引き締まる思いです。振り返れば、当院に児童指導員として入職してからの 10 年間は多くの人たちに支えられてきたように思います。最初の 2 年間は保育現場で汗を流しました。ガラス細工のような新生児を相手に服を着せるなどの育児手技もままならず、先輩方からご指導をいただきながら、同期と焼肉店に行きながら、何とか日々を積み重ねてきました。3 年目からは総務課に移動し現在に至りますが、業務の対象が変わっても支援の在り方は変わらず、時には後輩にも助けられながら日々の業務を乗り越えています。これからは支えられる側から支える側になれるように、また、先輩方が必死になっただけで子どもたちへの想いを後輩たちに伝えられるように日々の業務に向き合っていきたいと思えます。

9 月の運動会の様子です。ハートに隠れた表情をお伝え出来ないのが残念ですが、みんな真剣な眼差しでした！



一生懸命競技に取り組みました



応援グッズを使って
みんなを応援しました



狙いを定めて投げられました



楽しそうに競技に取り組んでいる姿が
印象的です



上手にできて満足気な表情です



手作りスライ
（石川美恵子様、中原みゆき様）
ご寄贈いただきました

手作りマスク
（佐藤万里子様）

絵本
（フレール館様、
橋モリサワ様）

- 【理念】
 子ども達の基本的人権を守り、家庭に代わって安定した人間関係の中で、心身ともに健康で心豊かな子どもを育成する。
- 【基本方針】
1. 健康的な体にて育てる
 2. 豊かな愛情で情緒の安定をはかり、自主性と思いやりを育てる
 3. 豊かな生活体験ができる環境を安全に整える